



年頭にあたって……………P 2

一 般 質 問 ……P 3～9

12月定例会

湯川議員・昔農議員・籠味議員・溝口議員

町議会審議結果……………P10～13

11月臨時会、12月定例会

委員会等の動き……………P14～15

行政報告・意見書……………P16～17

表紙のコメント……………P18

発行/上川町議会 編集/議会広報特別委員会



上川町コミュニティバス「がみくる」の運転を担当する
層雲峡観光ハイヤーの蒲澤省吉さん(12月23日、上川駅前)

年頭にあたって

新年を迎え本年最初の議会広報の発刊に合わせて一言ごあいさつ申し上げます。また、日頃より議会運営に対しまして格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

去年は、世界中でコロナ感染拡大における対策に追われました。日本では四月の第4波から八月の第5波と緊急事態の終息を迎えずに次の波が来て、ワクチン接種で調達が遅れるなど混乱があったことは残念であります。その中、観光産業や飲食業等は大打撃を受け、経済の停滞を招く事となったわけです。それぞれの産業に連なる事業者も影響を受け、事業の停止・休止を余儀なくされる状況にあります。このような生活に追い打ちを掛けるように灯油やガソリンの値上げは冬本番の時期に家計を直撃し、生活物資の値上げが更なる困窮者を生み出しています。

第6波が引き起こす変異株が日本にも入って来ました。今までのデルタ株よりも感染力が強いと云われ市中感染が出ています。行動の制約を左右するワクチン接種が急がれます。

コロナの話題に偏りがちになりましたが、どうしても、この二年間の生活の在り方の変化をうながした事もあり、これからの教訓としてどのようにして行すべきものかと考えざるを得ません。

今年は北京オリンピックが開催されます。応援団を送り出すことは出来ませんが、高梨沙羅さん、勢藤優花さんの更なる連続出場と前回以上の成果の報告を頂けるようにみんなで応援したいと考えます。コロナ禍の日本に笑顔の花が咲くでしょう。

更に今年は地域おこし協力隊の先陣が3年の任期を迎え具体的な活動に入ります。起業する方が多いと伺います。仕事、住居、家族等の不安、各々の課題をもつ協力隊員もいます。全ての方々が移住・定住が出来る環境を作るため、一人ひとりに寄り添った手伝いを住民・行政がともに出来ることから始めて行ければと願います。今年一年、町民の皆様のご健康を願い年頭の言葉とさせていただきます。



上川町議会議長 安部逸雄

第9回町議会

一般質問

令和3年第9回町議会（定例4）の一般質問は、12月16日に行い、湯川議員ほか計4人が5件について町長の考え方を問いました。

（記事の内容は要点を掲載しております。）

今、上川町は経験したことの無い状況にある。観光客人込の減少そして経済活動の低迷。特に10月末での北の森ガーデンの閉鎖は様々な影響を与えている。

当町の商工業に係わる多くの方々からも、やはり上川町の経済は層雲峡の観光事業にけん引されているとの声が多く聞かれるところであり、一刻も早くコロナの終息を期待している。

そんな中、町民の声として、またアイヌ協会の方々より層雲峡での活動の場が失われ、特に先の北

コロナ禍における今後の上川町の観光振興とアイヌ新法の利活用について

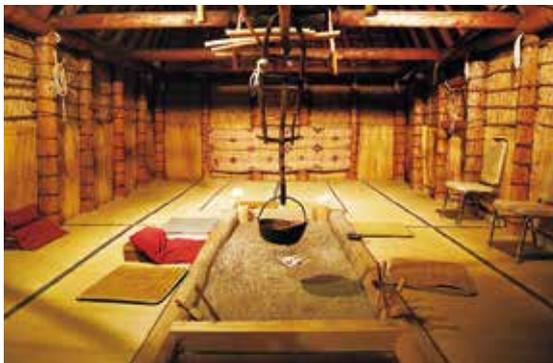


（湯川秀一議員）

町の観光振興

アイヌ文化の振興を推進すべき

町長—アイヌ文化の振興と日本遺産推進事業との連携も図り、地域の活性化へ



（旧北の森ガーデン内に設置されてある「アイヌチセ」の内部）

の森ガーデンの閉鎖による雇用の喪失は大きな打撃となっている。そして道の駅構想も進まず、ペニウンクルをはじめ、支援団体の方々も不安を感じていると聞いており、アイヌ新法（アイヌ政策推進交付金事業）を利活用し、アイヌ文化の振興を推進すべきと思うが、現時点での町長の考え方は。

町長答弁

全世界において新型コロナウイルス感染症がまん延し、感染拡大を防止するため経済活動を人為的に抑制したことにより、多くの産業において多大なる経済被害が発生し、町内においては特に観光業並びに飲食業、またその関連する事業者において事業が停滞し、非常に深刻な状況となっている。

町内の観光業においては、国道39号に面する大型観光施設「北の森ガーデン」が、個人旅行化による団体客の減少及び新型コロナウイルス感染症による観光客の大幅な減少などにより営業収益が悪化し、本年10月末日をもって営業が終了されたところである。

北の森ガーデンにおいては、上川アイヌの方々による伝統的な木彫品の展示販売や、上川アイヌ文化の保存・伝承のため復元された伝統的な家屋である「チセ」が展示されているだけに、早期の売却先の決定及び事業再開を期待するとともに、行政としても各方面に打診するなど引き続き支援していく。アイヌ政策推進交付金については、アイヌの人々の誇りが尊重さ

れる社会を実現するため、アイヌ文化に関する理解の促進、継承者の育成など地域ごとに具体的なアイヌ施策を推進するために創設されたものである。

本町においても、アイヌ民族の生活様式に関する文化の伝承や伝統等に関する理解の促進、体験交流の促進などアイヌ文化の振興に向けて、推進交付金を活用するための前提条件となる「アイヌ施策推進地域計画」の策定について、関係者と協議を行ってまいりたい。今後は、大雪山麓上川アイヌ日

本遺産推進事業との連携も図りながら、日本遺産ツアーの造成・販売など地域の歴史的魅力や特色を通じた文化・伝統を国内外に発信していきながら、地域の活性化につながるよう取り組んでいく。

再質問

アイヌ文化の振興という観点から「チセ」の今後の在り方について考えを伺いたい。

答弁

日本遺産認定の町として、アイ

ヌの方々の活動拠点の場所として寄り添えるよう検討してまいりたい。

再質問

上川町の入り口でもある北の森ガーデンが閉鎖され、国道39号の灯りがひとつ消えたということにもなる。

そして、観光振興の課題である層雲峡の玄関口の廃屋ホテルの今後について、撤去・跡地利用も含め現時点での考えは。



(12月定例会の様子)

答弁

全国各地の国立公園で抱えている問題であるから、国へ同様の要望が多く上がっている。当町も国へ要望し、粘り強く対応していきたい。

福祉灯油

助成対象世帯を拡充し、支援を

町長―地方創生臨時交付金を活用し、支援

よる拡
に帯
騰世
高象
格対
の油
価格
灯油
福祉
油充
に



(昔農正春議員)

現在、上川町においては、低所得者世帯に対する経済的負担を軽減するため、福祉灯油助成事業が実施されている。本年度は特に長引くコロナ禍、灯油価格の高騰などにより、冬本番を迎え生活に大きな影響を及ぼしている。このことから、現在の助成対象世帯の範囲をさらに拡充し、支援することが必要ではないかと考えるが町長の考え方を伺いたい。

町長答弁

現在、新型コロナウイルスのワクチン接種が進み世界的に経済活動が再開し、原油の需要が膨らむ一方、供給は抑えられている状況で、その影響から灯油価格の高騰状態が続いており、コロナ禍において生活する町民の方々の家計などへの影響が大きいものと懸念をしている。

上川町の福祉灯油の助成は、冬期間の生活に影響を及ぼす灯油価格の変動が低所得世帯において、家計を圧迫する状況になっていることから、その経済的負担を軽減するため、灯油購入に係る費用の一部を助成することにより、生活の安定と福祉の増進を図ることを目的として、町民税非課税で、75歳以上の高齢者や障がい者、ひとり親世帯に対し、100ℓの福祉灯油に対し助成をしているところである。

「対象世帯の拡充」については、新型コロナウイルスの影響により、灯油の高騰が家計への影響があることを充分理解をしているが、このたび、国が令和3年11月19日に発表した「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」により、非課税世帯や子育て世帯への給付・支援が予定されていることもあり、町としては、現行の福祉灯油の助成制度の中で、対象世帯の拡充については、考えていない。

しかし、コロナ禍の中、町民が安心して暮らしを続けられるよう、今後予定される新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金などを活用し、生活・暮らしへの支援の事業を検討してまいりたい。

再質問

コロナ禍に加え、燃料の高騰のみならず食品などの物価も高騰しており、全ての世帯で家計に大きな影響を及ぼしている。福祉灯油の助成制度に限定した考え方はなく、今後国で予定されているコロナ対応の臨時交付金を活用し、全世帯を対象を広げて生活支援策を考えてほしい。



答弁

現時点では、国からの補正予算の中での臨時交付金の内容がまだ分からないので、それを見極めた上で、内容や方法、額、対象者などを早急に詰めて、できるだけ早く行き渡って少しでも負担を軽減できるような方策を実施したい。

昔農議員

ぜひ、検討いただき、これから冬本番を迎え町民の皆さんが少しでも安心して生活できるように取り組みを進めてほしい。

環境整備

雇用の確保を図るには住宅確保が必要

町長―空き家及び既存施設等の利活用の方策について検討

町内における雇用環境の整備について

昔農正春 議員

町内企業・進出企業などが、町内外から雇用の確保を図るには、住宅を確保する必要があり、既存の施設だけでは不十分ことから、町内の空き家や既存施設を改修整備し、有効活用を図ることも一つの方策と考える。

また、近年需要が高まる新たな働き方として、ワーケーションなどの誘致に向けた住宅環境の整備も必要と考える。

これらを進めるには、国等の助成事業の活用や必要な施策に対する町の支援策が必要と考えるが町長の考え方を伺いたい。

町長答弁

本町では、第10次上川町総合計画及び上川町まち・ひと・しごと創生総合戦略を補完する計画として、平成30年3月に5年間を1サイクルとした「上川町移住・定住促進計画」を策定した。その計画に基づき、人口減少に歯止めをかけ持続可能なまちづくりを進めるため、仕事や住まい、子育て、移住者支援など様々な施策の展開を図ってきている。

特に住まいに関する施策については、町内に不動産業者がないことや住宅情報の不足から物件探しが困難な状況になっているため、平成30年9月に「上川町空き家・空き地バンク制度」を創設し、北海道宅地建物取引業協会旭川支部との連携により空き家・空き地の流通促進を図り、これまで建物売買10件、建物賃貸6件、土地売

買1件の契約が成立しており、空き家解消と住宅提供との両面でのマッチングが進んできている。

また本年度においては、産業振興補助金を活用し、旧大雪営林署で使用されていた官舎を民間事業者により改修工事が実施されており、町内賃貸住宅の供給不足の解消に寄与されているところである。

既存の住宅支援制度である住宅建築促進事業補助金や空き家改修支援事業補助金の制度周知、移住定住促進団地への誘導など活用促進を図るとともに、来年度で上川町移住・定住促進計画が満了するため、次期計画の策定を進める予定であるが、現状での住環境における課題や問題点などを洗い出し、空き家及び既存施設等の利活用の方策について検討してまいりたい。

また、ワーケーションに対する施設整備については、コワーキング施設として平成31年4月にカミカワークラブを建設したことを始め、本年10月には、旧札幌銀行を改修した上川町交流スペース&コワーキングスペース「PORTO」が開設され、町内外の方にご利用頂いており好評を得ている。

さらに本年度末には、町内全域

において光ファイバー網が敷設され、大雪森のガーデンや層雲峡オートキャンプ場、大雪かみかわヌクモなど周辺施設においてもブロードバンド環境が整備されることから、ワーケーション施設として利活用が図られるように周知してまいりたい。



(コワーキングとシェアハウスを兼ねたカミカワークラブ)

再質問

現在町においては、すぐに入居できる住宅が不足しているのが実態でないかと思う。また、コロナ禍もあり新たな働き方として需要が高まっているテレワークや仕事と余暇を組合わせたワーケーションなど、短期間でも利用できるテ

レワーク用の住宅整備も検討してはどうかと考える。このため、町内空き家や既存施設で宿舎として活用されていた施設などを有効活用してはどうかと考える。改修整備にあたっては、所有者との協議や改修費用など課題も多いと思うが、国の補助制度や町においても利活用の方策や支援策について検討し取り組んでほしい。

答弁

今、この町にとって住宅整備・

環境の整備、非常に重要な課題だと思っている。所有者の了解も取りながら意向など具体的に調査したうえで、環境整備が必要だと考えている。また、本町はワーケーションの好適地であり、そのための色々な条件整備が必要と思うので進めていきたい。

昔農議員

ぜひ、できるだけ早く取り組みを進めていただきたい。

SDGs

持続可能な開発目標に対する考え・取り組みは

町長一すでにやっているまちづくりがSDGsの理念に通じる

SDGsの取り組みについて



(籠味正樹議員)

持続可能な世界を実現するため、国連において全会一致で採択された国際目標である「SDGs」について、世界各国をはじめ、国内でも自治体、企業などさまざまな取り組みが行われている。

SDGsが2030年までに達成を目指す目標には、環境やエネ

ルギーに関する事など、17のゴールが定められている。

令和3年度の町長の行政執行方針では、低炭素社会の実現において、SDGsとの関係に触れられている。一方、上川町が歩んできた歴史やまちづくりの目標には、SDGsと共通すると思われるものが、ほかにもあると考える。

また、上川町が包括連携協定を結んだ中には、SDGs推進の一環という目標を掲げている企業もある。こうした状況の中、SDGsに対する考えや今後の取組みについて町長に伺いたい。

町長答弁

ご承知のとおり、持続可能な開発目標「SDGs」は、貧困や飢餓、教育など未だ解決をみない社会面。エネルギーや資源の有効活用、働き方改善、不平等の解消など、全ての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済面。地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境面。大きく3側面から捉えることのできる17のゴールを掲げ、より良い未来を築くことを目指しているものだというふうに

理解をしている。

上川町においては、これまでSDGsを意識したまちづくりを進めてきているわけではないが、第10次総合計画で掲げる「まちの将来像」の達成に向けた各施策において、SDGsの指針と共通した取組みを進めてきているものと考えている。特に環境、エネルギー面において、これまでも地球温暖化対策や地熱エネルギーの推進など取り組んできているし、国が打ち出しているカーボンニュートラルの動きなどもあり、町政執行方針で触れさせていただいたところである。その他にも保健、教育、経済や生産と消費など多岐にわたって持続可能な開発目標が掲げられているが、我が町は、SDGsを施策の核に据えるというこ



とではなく、時代背景や将来展望を的確に見据え、計画的かつ戦略的なまちづくりを展開していくなかで、持続可能な地域社会の実現を図ってまいりたい。

再質問

SDGsは、世界共通言語というメリットがある。SDGsに沿って伝えることで、外国や企業などに理解されやすいという面がある。

町長が普段、言っている上川町の魅力を高める、上川町のファンを増やすということをSDGsと合わせて、情報発信することが、利点になると思うが、どうか。

答弁

大上段にSDGsを掲げることがどうなのか、すでにやっているまちづくりがSDGsの理念に通じると思っている。

再質問

大上段に構えて、進めるという意味ではない。SDGsの要素を

加えることで、発信できる上川町ならではの歴史の魅力がある。その一つは、国立公園だと思う。

明治後期の愛別村（現在のの上川町を含む地域）の村長であった太田龍太郎氏が鉄道の調査のために入ったのが現在の層雲峡。その景観、環境を守るため中央政府に書簡を送ったことが現在の国立公園につながっている。そのことは現在のSDGsに通じる。SDGsにのせることで、新たな観光の魅力につながるか。

答弁

大雪山国立公園は、国内最大で、町、北海道にとって大きな宝。北の山岳リゾートというコンセプトも打ち出し、まちづくりを進めていきたい。太田龍太郎氏のことは、大事にしながら進めていきたい。

環境ということでは、国有林の管理の仕方など、関係機関で発言をしてきている。国立公園に限らず、過去にいろんな方がかわって、今のかたちになっている。SDGsを意識して、やってきた訳でなく、結果的にそういう理念に近いものになってきている。



(洞爺丸台風で大きな被害にあった層雲峡の原生林)

再質問

町の歴史の中でもうひとつ、林業の歴史も大事だと思う。

昭和29年(1954年)の台風15号により、上川町は大きく変わった。未曾有の風倒木の処理のため、人口が大きく増えた。その処理のため6年がかかった。処理を終えたら、帰る予定の人が、山を再生する造林という仕事が生まれ、上川に残った。町では町産材を使ったクラフトの作成等を進め、持続可能な林業を目指しているが、風倒木の歴史とつながっているとと思う。SDGsにより、価値が生まれるのではないか。

答弁

林業の実働部隊としての森林組合が不安定な状況におかれている面もあるので、町として支援をしっかりとしていきたい。森林林業は、この町の主産業になりえると思っている。

まずは、クラフト材、子どもたちが森林と接触できる場所も整備していくが、もっと具体的な取り組みをかたちにして、持続可能なことにつなげていきたい。

再質問

国立公園と林業に触れたが、上川町の歴史は、ドラマチックだと思う。SDGsを通して、日本、世界へ向けてドラマチックなまちづくりを見せてはどうか。

答弁

いろんな見方もあるが、他の町にはない素晴らしい宝物があると思う。そのことを大事にし、意識をもって、まちづくりを進めていきたい。

農業者負担増

水田活用の交付金の見直し

町長—安心して生産できる体制づくりの構築に向けて国・道へ要望

水田活用の直接支払交付金の見直しについて



(溝口久男議員)

多い上川町農業にとっても、今までにない大きな問題と思うが、町長の考えを伺いたい。

町長答弁

国は、来年度から転作用として利用している水田を、令和4年度から令和8年度までの5か年間に一度も水張りをしない場合、いわゆる「コメ」を生産しない水田について、交付金の対象から外す、そういった見直しを検討している。水田活用の直接支払交付金とは、水田を活用して、食料自給率、食料自給力の維持向上を図るため、戦略作物である麦、大豆、飼料用作物などを生産する農業者に対して支援する制度で、昨年度、町内で作付けされた主食用米は251ha、水田活用交付金対象農地もほぼ同じで265haとして、農業者に交付された交付金額は総額

政府が今年11月30日に決定した水田活用の直接支払交付金の見直しの内容は、これまで水田転作に協力してきた稲作農家にとっては死活問題となりかねない。今回の見直しでは、水田転作に協力しても、5年以上水張りをしなければ、交付金の対象から除外することになる。水張り年限5年の策定は、全面転作や条件不利地域などでは、水田に復帰させることも困難であることから、交付金削減となり農業経済に重大な影響を与えることになる。転作面積の

で1億5千万円ほどになっている。令和9年度以降、水田活用交付金を受けるには水張り面積を260ha増やさなければならず、もし、水張りをしなければ約1億円の減収になると試算されている。

上川町は大豆、そば、飼料用作物を初め、高収益作物としてミニトマト、かぼちゃなどを生産しており、今後これらを令和9年度までに水田へ戻すということは、農業者にとつてたいへんに大きな負担であるとともに、農業経営、そして、地域経済にも大きく影響するものと考えている。しかしながら、交付対象農地の詳細な基準が、まだ示されていないなど不明な点も多いため、今後、国・道の動向を注視しながら、近隣市町村、JAなど関係団体と連携を図りながら、農業者が安心して生産できる体制づくりの構築に向けて国・道へ要望をしていく。さらに、上川町のような中山間地域では、作付のできる農作物も限られているため、地域の実情にあった農業政策を行うよう合わせて要望してまいりたい。

再質問

上川町では、そば・牧草の転作が多いので、水田にするためには基盤整備等をしなければ、10年後には荒れ野になってしまう。農業者も情報が少なく、不安である。町が主導的に話し合いの場をもうけていただきたい。

答弁

可能な限りの情報を早めに取りながら、農業者の方々と協議させてもらい、今後の対応を考えていきたい。

再質問

関連して、上川町も取り組んでいる中山間地域等直接支払交付金についても、永年草地の更新、排水改良等簡易基盤整備、鳥獣被害対策、たい肥による土づくり事業が外された。農業経営に必要な事業と考えるが、今後の町の農業予算での対応と考える。

答弁

中山間地域等直接支払交付金については町の方も4分の1の負担



をしている。もし、大幅に減額になったとしたら、中身をしっかりと分析、見極めながら、必要に応じた町としての支援策を講じていく必要がある。

再質問

上川町でも転作に協力し、特にそばは「大雪そば」としてブランド化され、道内外から良い評価を受けているが、交付金なしでは収支が合わず作付けは出来なくなる。町では今、農地改善対策事業補助金として予算化しているが、今後事業費が増えることも予想される。対応について伺いたい。

答弁

今までも一定の5年刻みぐらいで町単独の基盤整備に対する支援はやってきている。引続き農業者の要望を聞き、応えていきたい。

溝口議員

上川町の農業を守る立場で、今後もしっかり対策をしていただきたい。

議 案 審 議 結 果



審議結果については、全て原案のとおり「全員賛成」で可決・承認等をしました。

11月臨時会

11月29日に開会。条例の一部改正3件、令和3年度一般会計ほか全5会計の補正予算を審議し、同日閉会。

可決議案等

■条例の一部改正

- ◎職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について
 - 8月に出された人事院勧告に準拠し、期末手当を0.15月分引き下げる条例の改正を行うものです。
- ◎上川町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について
- ◎町長等の給与に関する条例の一部を改正する条例について
 - 議会議員及び町長等の期末手当は、一般職の支給月数に準じて支給していることから、特別職報酬等審議会の「適当である」との答申を踏まえて、議会議員及び町長等に支給される期末手当を0.15月分引き下げる内容の改正条例です。

■補正予算

◎令和3年度上川町一般会計補正予算（第7号）

款	補正額	補正前の額	補正後の額
議会費	△1,333万円	58億1,479万4千円	58億146万4千円
総務費	△36万4千円	期末手当改定に伴う減	
民生費	△463万円	給与改定及び会計間異動等に伴う減	
衛生費	△200万円	給与改定等に伴う介護老人保健施設事業会計繰出金の減	
土木費	△600万円	給与改定等に伴う国民健康保険上川町立診療所会計繰出金の減	
	△33万6千円	給与改定等に伴う公共下水道事業特別会計繰出金の減	

- ◎令和3年度上川町国民健康保険上川町立診療所事業特別会計補正予算（第3号）
 - 歳入歳出予算の総額からそれぞれ684万円を減額し、予算総額を4億439万円とするもので、給与改定及び会計間異動等に伴う補正減です。
- ◎令和3年度上川町立介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第1号）
 - 歳入歳出予算の総額からそれぞれ495万3千円を減額し、予算総額を1億6,233万5千円とするもので、給与改定及び会計間異動等に伴う補正減です。
- ◎令和3年度上川町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
 - 歳入歳出予算の総額からそれぞれ33万6千円を減額し、予算総額を3億260万9千円とするもので、給与改定及び会計間異動等に伴う補正減です。
- ◎令和3年度上川町簡易水道事業会計補正予算（第1号）
 - 本補正予算は、収益的収入及び支出において、支出の水道事業費用24万5千円を追加し、総額を1億3,360万6千円とするもので、給与改定及び会計間異動等に伴う補正です。

12月定例会

12月16日に開会し、会期は17日まで。条例の一部改正3件、条例の廃止1件、令和3年度一般会計ほか全8会計の補正予算、協約の締結などの23件を審議し、16日閉会。

可決議案等

■条例の一部改正・廃止

- ◎上川町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について
 - 内閣府令の施行によるデジタル化の推進に伴い、書面等によることが規定又は想定されているものについて、電磁的方法による対応も可能な規定を追加する等の改正です。

質疑内容

- ◎保育所に関する手続きをデジタル化について

Q（籠味議員）環境整備などが必要になると思うが、保護者が保育所に関する手続きのデジタル化は、いつ頃から行う予定か。

A（保健福祉課長）手続きのデジタル化は検討中で、認定こども園を令和7年度に向けて開設する予定であるので、どのようにデジタル化するか、今後打合せをし、期間等を検討し進めていきたい。



- ◎上川町国民健康保険条例の一部を改正する条例について
 - 出産育児一時金の支給額の見直しに関する健康保険法施行令等の一部を改正する政令が公布されたことに伴い、出産育児一時金の金額が改正され、所要の改正が必要となったことによる改正です。
- ◎国民健康保険上川町立診療所設置条例の一部を改正する条例について
- ◎上川町立介護老人保健施設設置条例の廃止について
 - 令和4年4月1日から上川町立介護老人保健施設を介護医療院つつじ苑に転換することに伴い、介護医療院を上川町立診療所に併設する形をとることから、診療所設置条例を改正するとともに老健施設の設置条例の廃止です。

■連携協約の協議・協定の廃止

- ◎旭川市との連携中枢都市圏形成に係る連携協約の締結に関する協議について
 - 上川中部1市8町において、更なる地域経済の活性化を図るため連携中枢都市圏形成の合意が得られたことから、地方自治法第252条の2第3項の規定に基づき、議会の議決を求めるものです。
- ◎定住自立圏形成協定の廃止について
 - 平成22年に上川中部1市8町で締結していた定住自立圏形成協定について、連携中枢都市圏への移行に伴い廃止をするものです。

■補正予算

◎令和3年度上川町一般会計補正予算（第8号）主なもの

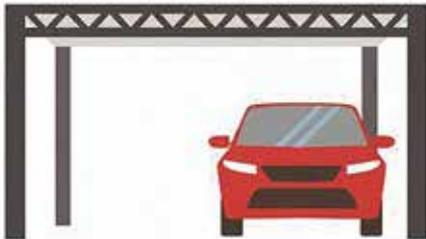
款	補正額	補正前の額	補正後の額
		△1,752万6千円	58億146万4千円
議会費	△120万9千円	議会管理経費の減	
総務費	△36万3千円	庁舎管理費・ふるさと応援寄附事業・情報管理費等の増、移住定住促進事業補助金・地域おこし協力隊等事業の減	
民生費	1,870万9千円	福祉灯油助成事業・介護保険事業特別会計繰出金・子育て世帯臨時特別給付金事業・私立幼稚園施設型給付事業の増、後期高齢者医療事業負担金の減	
衛生費	899万5千円	新型コロナワクチン接種・健康検診事業、福祉会館等の増	
農林水産業費	△926万7千円	新規就農者誘致特別措置奨励金補助金の増、有害鳥獣駆除事業交付金・農業次世代人材投資事業補助・越路・豊原農道整備事業負担金の減	
商工観光労働費	△897万2千円	産業振興補助事業補助金・観光振興広告料・観光施設管理経費の増、大雪山ツアーズ運営費補助・層雲峡地区活性化イベント負担金の減	
土木費	△3,634万円	層雲峡流星銀河双瀑線擁壁補修工事等の減、旭町望岳団地建設事業の増	
消防費	△177万7千円	常備消防事業経費ほかの減	
教育費	186万4千円	教育委員会経費・高校生海外研修事業交付金の減、かみんぐホール管理経費・北京オリンピック出場選手応援事業の増	
公債費	△126万8千円	長期債元金の増、利子の減	
諸支出金	1,210万2千円	簡易水道事業会計出資金・負担金・ふるさと応援基金費積立金の増	

質疑内容

◎産業振興補助金の内容について

Q（籠味議員）商工労働観光費の産業振興補助金補正の2件の内容は。

A（産業経済課長）清掃業を営んでいる会社の車両重機等の保管庫整備及び賃貸住宅業の備品等整備の補助金。



◎令和3年度上川町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）

○歳入歳出予算の総額に、それぞれ299万円を追加し、総額をそれぞれ4億9,082万4千円にするもので、主な内容は、広域滞納整理機構負担金の確定及び保険給付見込額の増、令和2年度分の保険給付費等交付金及び特定健診等負担金のそれぞれ精算に伴う償還金の補正です。

◎令和3年度上川町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）

○歳入歳出予算の総額に、それぞれ16万2千円を追加し、総額をそれぞれ7,474万6千円にするもので、主な内容は、保険基盤安定負担金の確定等による納付金の増及び令和2年度決算の確定に伴う一般会計への戻入れ分の補正です。

◎令和3年度上川町介護保険事業特別会計補正予算（第2号）

○歳入歳出予算の総額に、それぞれ2,916万8千円を追加し、総額をそれぞれ4億8,592万2千円にするもので、主な内容は、施設介護・居宅介護のそれぞれサービス利用見込み及び給付対象者の増、高額介護サービス等のサービス利用見込みの増、平成30年度給付負担金の国への返還が生じたことによる補正です。

◎令和3年度上川町国民健康保険上川町立診療所事業特別会計補正予算（第4号）

○歳入歳出予算の総額からそれぞれ105万3千円を減額し、総額をそれぞれ4億333万7千円にするもので、主な内容は、新型コロナウイルスの感染防止等に伴う医療廃棄物処理量増及び検体の臨床検査数及びCT検査数増等による補正です。

◎令和3年度上川町立介護老人保健施設事業特別会計補正予算（第2号）

○歳入歳出予算の総額にそれぞれ17万円を追加し、総額をそれぞれ1億6,250万5千円にするもので、主な内容は、会計年度任用職員報酬及び共済費に不足を生じたことによる増及び新型コロナウイルスの感染防止等に伴う医療廃棄物処理量、施設介護サービス事業費において、公用車の使用頻度の増等による補正です。

◎令和3年度上川町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）

○歳入歳出予算の総額からそれぞれ24万8千円を減額し、総額をそれぞれ3億236万1千円にするもので、内容は公債費元金及び利子のそれぞれを減額補正です。

◎令和3年度上川町簡易水道事業会計補正予算（第2号）

事業確定による予算の整理が主な内容は、
○収益的収入及び資本的収入において1,465万8千円を減額し、収入総額2億3,215万7千円に。
○収益的支出及び資本的支出において1,240万円を減額し、支出総額2億5,780万円にするものです。

◎令和3年度上川町一般会計補正予算（第9号）

○歳入歳出予算の総額に、それぞれ1,850万円を追加し、総額をそれぞれ58億243万8千円にするもので、内容は、子育て世帯への臨時特別給付金事業に伴い、年明け配布を予定していた5万円分のクーポンを現金一括支給に変更することによる補正です。

質疑内容

◎子育て世帯への臨時特別給付金の支給日について

Q（籠味議員）年内支給ということだが、いつ支給予定か。

A（保健福祉課長）年内支給に関しては12月30日に支給予定。年内支給できる分は、107世帯の見込みで、公務員また、高校生だけの世帯については、手続上の申請業務があるため、早急に1月明けから受け付けを開始し、早めに支給していきたい。



■選挙

◎上川中部福祉事務組合議会議員の選挙について

○令和4年4月1日設立する上記組合の議会議員選挙は、地方自治法第118条第2項の規定による指名推薦を行い、安部逸雄議員、笠間法考議員、溝口久男議員の3人が当選しました。

委員 動 き 会

総務文教常任委員会

◎所管事務調査

▽10月22日

《主な調査内容》

○道立上川高校の存続と対策等について

・小規模校の取り扱いについては、2年連続して入学者が20人を下回ると再編整備の対象になり、上川高校は令和4年5月1日現在の第1学年の生徒数で判断される。地元生徒の進学率が、概ね50%以上になると地域連携特例校に該当し、上川高校は存続となるが、地域連携特例校は再編留保により、入学者が2年連続で10人を下回ると、さらに再編整備の対象になる。その再編整備スケジュールについて、入学者増加の取り組みについて、上川高校の魅力活性化プロジェクト活動・令和4年度に向けた支援



事業などの説明を受けた。
◆委員からは、地元進学率が50%以上となった場合の次年度以降の適用について、北海道教育委員会への要望活動について、魅力活性化プロジェクトに係る令和4年度支援事業の内容及び費用について、進学・進路に対するアンケート調査の実施方法について、グループ活動の活用についてなどの質疑、意見が出された。
◆委員会としては、上川高校の存続及び将来像については、議会としても早期に情報収集し、議論する機会を設ける必要性があるとの意見が出され、現地調査も含め引き続き調査を継続していくことを確認した。

○防災体制（停電及びコロナ禍での対応）について

・胆振東部地震の前後から関係設備の拡充を進めてきており、層雲峡地区公衆Wi-Fi整備、水害ハザードマップ作成、令和元年から2か年で防災無線及び専用機を整備し、令和4年度には防災訓練を実施する予定。新型コロナウイルス感染症の拡大により、災害時の避難所運営が課題となっており、感染拡大防止策を徹底することが極めて重要なことから、避難所レイアウトの作成、段ボール間仕切りを整備したことなどのほか、災害時における各備品等の備蓄状況や進捗状況及び年次計画についてなどの説明を受けた。

◆委員からは、防災に関わる情報の住民周知について、停電時における北海道電力ネットワーク株式会社からの連絡手段について、主要施設に常設する非常用発電機の整備について、非常用発電機に係る事業所との協定について、災害時初動マニュアルの職員への周知徹底についてなどの質疑・意見が出された。

◎意見書審査

▽12月9日

・所管事務に関する意見書の審査について

産業福祉常任委員会

◎所管事務調査

▽11月29日

《主な調査内容》

○新型コロナウイルスワクチン接種について

・第3回目のコロナウイルスのワクチン接種のスケジュール等の説明を受けた。

◆委員からは、若い世代の接種率について、変異ウイルスに関する情報提供について、質疑、意見が出された。

○旭ヶ丘地区活性化事業について

・大雪森のガーデンの令和3年度上半期事業実績及び収支見込について説明を受けた。
◆委員からは、ガーデンウェディングの収入の詳細及び令和4年度の事業期間について、シャトルバスの利用実績及び運行経費について、質疑が出された。

○起業促進及び誘客交流施設事業
について



(ヌクモで、上高生が考案したハニー&レモンパウンドケーキを作成し、販売)



・大雪かみかわヌクモの令和3年上半期事業実績及び収支見込について、収入の減少に対応するため、施設維持管理に係る委託料、広告宣伝費などを減額し収支の均衡を図る。イベントの実施状況及び予定については、感染症拡大防止の観点から小規模イベント、手作りキット販売等を各季節・行事等に合わせ実施しているとの説明を受けた。

○観光地づくり対策事業について
・観光地づくり対策事業補助金に係る令和3年度上半期事業実績及び収支見込みについて、経常利益は赤字の見込みとなっている。この収支の差については、補正予算を提出、観光振興基金の残高の一部を充て、残りは大雪山ツアーズの利益剰余金を引当てながら、最終的に資金収支の調整を図りたいと説明を受けた。

○上川町たべもの交流館の指定管理料について

・たべもの交流館を再オープンするに当たり、建物に付随する部分の改修が必要となり、施設所有者である町が改修しなければならず、経費の圧縮と工事期間の短縮を図るため、緑丘工房が予定している改修工事と同時に施工することとなった。その費用を5年間で分割して管理委託料として支払うこととし、委託料の変更と今後のスケジュールについて説明を受けた。

◆委員からは、チーズ工房に係る事業・収支計画について、費用対効果について、改修に係る補助制度等の有無、5年後以降の管理委託料について、質疑、意見が出され

た。また、委員会としては、今後各施設の経営状況等について、必要な資料の提出を求めながら、引き続き調査を継続していくことを確認した。

◎意見書審査

▽12月9日
・所管事務に関する意見書の審査について

議会運営委員会

▽11月29日
・第8回上川町議会臨時会（臨時5）の運営について

▽12月13日
・第9回上川町議会定例会（定例4）の運営について

▽12月16日
・第9回上川町議会定例会（定例4）の運営について

議会広報特別委員会

▽12月28日・1月19日
・第184号の編集及び校正について

議会活性化特別委員会

▽11月22日
○開かれた議会の検討について
・住民等との意見交換の場の検討について

全員協議会

▽11月29日
○特別職の報酬、給与等の改定について

○地方創生臨時交付金事業（新型コロナウイルス感染症対応）の実施計画について

○連携中枢都市圏の形成に係る連携事業について

○介護老人保健施設から介護医療院への転換について

▽12月9日

○北京オリンピック出場選手の応援体制について

○構造改革特区の認定について

○民間企業等との連携協定について



町長からの行政報告

12月定例会

◎企業会計の業務状況について

令和3年度の上半期における上川町簡易水道事業会計の業務状況について報告を受けた。

◎11月末における農作物の出荷状況について

農作物の生育状況については、本年は例年より積雪が少なく融雪も順調に進み、5月に入り気温が上がるらない日もあったが、8月に好天が続いたことにより、水稲、畑作物ともに平年並みか平年より早く推移した。農作物全体としては、収穫量、販売額とも増加しており販売額は前年より1億3千万円増加の9億3千200万円を見

込み、畜産物については、牛乳は平年並み、牛肉・豚肉については、新型コロナウイルスの影響で外食の需要が減り、出荷頭数及び販売額が大きく減少。農畜産物全体で見ると販売額は1億5千200万円減少の21億2千600万円を見込んでい



◎4月から9月までの上半期における観光客の入り込み状況について

上半期の観光客入り込みについては、17万8千人で前年より13万3千人減少し、対前年比は57.3%。令和3年上期は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度より、観光入込客数は4割以上、宿泊延べ数は2割以上下回る結果となった。

5月以降、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が継続的に発出された影響から、最盛期のグリーンシーズンは観光入込客数及び宿泊延べ数ともに前年を下回り、特に9月内全て緊急事態宣言期間中であつたことなどから、観光入込客数4割、宿泊客延べ数5割以上の減少となつた。町としては、国の臨時交付金を活用しながら、4月には「層雲峡温泉なんでもクーポン」を発行、7月には地域経済応援券「かみかわペイチケット」を発行して誘客対策を実施してきた。また、広告宣伝・情報発信においては、層雲峡温泉・観光施設広報宣伝事業として、テレビCMや旅行雑誌など幅広く広告宣伝活動を展開してきた。



今後については、層雲峡温泉誘客促進対策として、観光庁事業を活用し、無料送迎バスを令和4年2月20日まで運行し、層雲峡温泉と札幌圏・道外圏とのアクセスルートを確保し、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をしながら誘客促進を図ってまいりたい。

次回定例会のオンライン動画配信サイト「YouTube」でのライブ中継及び録画映像配信は3月中旬の予定です。是非ご覧下さい。

上川町議会チャンネル（町のホームページではありません）

URL： <https://youtu.be/4yQbpLDQ3k8>



（動画配信QRコード）





傍聴・ご意見ありがとうございました。今後も寄せられたご意見等を参考に改善に努めて参ります。

次の定例会は

町の議会を傍聴しませんか

3月中旬の開催予定です。



詳細のお知らせは
チラシでお知らせします。
感染症の発生状況により
中止する場合があります。

【問い合わせ先】

議会事務局

☎(01658)2-4064(直通)

意見書を提出しました

◆北海道農業の基幹作物てん菜の生産を守ることを求める意見書

提出者 溝口 久男

◆地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める意見書

提出者 泉 勝雄

◆燃油等の価格高騰対策、国の農業予算や運用変更に関する意見書

提出者 遠藤 和男

【提出先】衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、財務大臣、総務大臣、外務大臣、国土交通大臣、厚生労働大臣、環境大臣、農林水産大臣、経済再生担当大臣)

※各意見書の提出先は異なります。

表紙のコメント

上川町コミュニティバス「かみくる」が2019年10月に正式運行をスタート。その後、二年が過ぎた。町から運転業務を委託されている層雲峡観光ハイヤーの蒲澤省吉さんに話を聞いてみた。

「かみくる」は、平日の午前7時台から、午後4時台まで上川駅を起点に東と西のルートを巡回している。入浴のため、いきいきセンター「たいせつの絆」の往復が多いが、買物や金融機関の利用も目立つという。年代は70代から90代の方が多く、乗った人同士の会話でバスの車内が和むこともあるという。

運行初めの頃は「町の人が車両を珍しがって、のぞきこみ、乗る合図なのか、どうなのか、見極めが難しかった」と、笑いながら語っていた。現在は、乗るための合図が定着したようだ。

蒲澤さんは「なにより安全運転が大事。歩行者、自転車にいつも気をつけている」。そんな中でも冬は特に慎重になるそうだ。以前、町内の原木を運搬するトラック運転手として16年間、山道を走ってきた。「荒れた道は慣れている。でも、冬の交差点は雪山で見通しが悪くなり注意が必要」。また、「買物帰りの利用者のため、できるだけ近い場所に停めてあげたいけど、雪がたまり、思うような場所に停めることができない」こともあるという。

乗車した人に対して、目的地などを聞き、帰りの乗車もアドバイスする。「今日は寒いから、用事済ませたら、駅前で待ってたらいいよ。寒くなれば、駅舎にいればいいからさ」などと、気さくに声をかける。「うまく乗り継いで、一日の中で、公共施設と買物など二つ用事をこなしてる人も何人かいるんだ」と、感心することも。

「いつもありがとうございます。ご苦労様」と書かれた紙を渡されたり、「助かるわ」という声もよく聞くといい。そんな声を励みに蒲澤さんはハンドルを握っている。



議会広報は、

上川町ホームページでもご覧いただけます。

議会・議会広報 に対して

みなさまのご意見をお寄せください。

※広報委員（籠味、昔農、笠間、久米、宮本）
または、議会事務局へ 電話（01658）2-4064（直通）

【ホームページアドレス】
<https://www.town.hokkaido-kamikawa.lg.jp>

